事業所の概要表　（平成　31　年　1　月　22　日現在）

事業所名	グループホームこうの
法人名	社会福祉法人　安寿会
所在地	愛媛県松山市河野別府179－1
電話番号	089－993－2900
FAX番号	089－993－2911
HPアドレス	http://www.fukuzumi-hp.jp
開設年月日	平成　16　年　10　月　1　日

建物構造	☑ 木造 ☐ 鉄骨 ☐ 鉄筋 ☑ 平屋　（　1　）階建て（　1　）階部分		
併設事業所の有無	☐ 無 ☑ 有　（ 通所介護　小規模多機能居宅介護		
ユニット数	1　ユニット　利用者定員数　9　人		
利用者人数	9　名　（ 男性　1　人　女性　8　人 ）		
要介護度	要支援2　0　名	要介護1　5　名	要介護2　0　名
	要介護3　3　名	要介護4　1　名	要介護5　0　名
職員の勤続年数	1年未満　3　人	1～3年未満　0　人	3～5年未満　0　人
	5～10年未満　4　人	10年以上　3　人	
介護職の取得資格等	介護支援専門員　0　人　介護福祉士　4　人 その他（介護支援専門員…0名　ヘルパー1級…1名　ヘルパー2級…3名　その他…2		
看護職員の配置	☐ 無 ☑ 有　（ ☐直接雇用 ☑医療機関又は訪問看護ステーションとの契約　）		
協力医療機関名	福角病院　松本歯科医院		
看取りの体制（開設時から）	☐ 無 ☑ 有　（ 看取り人数：　0　人 ）		

利用料金等　（介護保険自己負担分を除く）

家賃（月額）	43400　円
敷金の有無	☑ 無 ☐ 有　円
保証金の有無	☑ 無 ☐ 有　円　償却の有無　☑ 無 ☐ 有
食材料費	1日当たり　円（朝食：　420　円　昼食：　560　円 おやつ：　円　夕食：　560　円）
食事の提供方法	☑ 事業所で調理　☐ 他施設等で調理　☐ 外注（配食等） ☐ その他（
その他の費用	・水道光熱費　日額　300　円 ・日常生活費　日額　102　円 ・　円 ・　円

家族会の有無	☐ 無 ☑ 有　（開催回数：　2　回）　※過去1年間	
広報紙等の有無	☐ 無 ☑ 有　（発行回数：　4　回）　※過去1年間	
過去1年間の運営推進会議の状況	開催回数	6　回　※過去1年間
	参加メンバー ※☐にチェック	☑ 市町担当者　☑ 地域包括支援センター職員　☐ 評価機関関係者 ☑ 民生委員　☑ 自治会・町内会関係者　☑ 近隣の住民 ☑ 利用者　☐ 法人外他事業所職員　☑ 家族等 ☐ その他　（　）

サービス評価結果表

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をＰＲ!!!

ーサービス向上への３ステップー

サービス評価項目
（評価項目の構成）

Ⅰ.その人らしい暮らしを支える
(1)ケアマネジメント
(2)日々の支援
(3)生活環境づくり
(4)健康を維持するための支援

Ⅱ.家族との支え合い

Ⅲ.地域との支え合い

Ⅳ.より良い支援を行うための運営体制

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3　チフネビル501
訪問調査日	平成31年2月6日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	（回答数）　4	（依頼数）　9
地域アンケート	（回答数）　5	

※アンケート結果は加重平均で値を出し記号化しています。（◎＝1　○＝2　△＝3　×＝4）

※事業所記入

事業所番号	3890101359
事業所名	グループホームこうの
（ユニット名）	
記入者（管理者）	
氏　名	鎌田弘利
自己評価作成日	H31年　1月　22　日

［事業所理念］※事業所記入	［前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果］※事業所記入	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】
お年寄りに対する尊敬の気持ちを忘れずに心の想いに寄り添うケアを行います。	①介護計画に基づいた内容の記入ができる。 介護計画内容をGH会で確認しています。又、ケアプランの毎日のチェックシートを作成し、カルテ記入時に一緒に記入し ます。 ケアの共有ができ意識して取り組みをしていますが、あまりできないプランも明らかになり検討をしていきます。 ②運営推進会議の参加者からの提案や意見を活かして報告が出来る。 ご利用者の家族のみでの参加が多く、ご利用者の参加が少なかったです。参加しやすいようにGH内で持つように工夫していきます。外出の意見が出たときは、外出の機会を設け（コスモス畑を見に行く他）報告をしています。また災害対策などの話があり、消防訓練や防災訓練の実施を報告しました。 運営推進委員はご家族2名・地域の方3名・民生委員1名・地域包括支援センター1名・市職員1名で推進させて頂きました。メンバーが増えるように声掛けをしていきます。	地区行事の文化祭や地域交流会の際には、併設事業所合同で建物内の地域交流スペースにて喫茶店を開き、交流の場を提供している。 事業所で接遇をテーマに話し合い、昨年11月の法人内研修時には、管理者が取組みを発表した。 利用者一人に職員3名がチームで担当している。チームで本人の思いを検討したメモ（「浴槽に入りたい」「外に出たい」等）をもとに、月1回のGH会（職員会議）やサービス担当者会議時に話し合っている。4名の利用者は、サービス担当者会議に参加している。

評 価 結 果 表

【実施状況の評価】
◎よくできている　○ほぼできている　△時々できている　×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅰ.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	本人や家族から今までの生活歴など聞き取ったり、日常の言動に耳をかたむけ、意向が反映できるように努めている	◎		◎	入居時、私の姿と気持ちシートを用いて情報収集を行い、思いや意向の把握に努めている。 「今まで関わってきた方とつながっていたい」という本人の思いを、入居後1ヶ月間の暫定介護計画に採り入れている事例がみられた。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	一瞬のつぶやきや表情を見逃さない努力をして「本人はどうか」という視点で検討している。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人（家族・親戚・友人等）とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	面会時に友人・親戚に入所前の様子を聞き対応の参考に聞くことがある。家族には、定期的に話し合いの時間を取って本人の想いについて話し合っている.				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	△	日々の記録に一瞬のつぶやき等記録に残すようにしている。カンファレンス等で共有できるよう努めているが出来ていない部分もある。県外の方は、毎月連絡を入れてお伝えし記録している。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	△	日々の業務に流されてしまうと見落してしまうことがある。言動を意識して観察し本人の想いを組み取るように努める。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人（家族・親戚・友人等）から聞いている。	○	入居前後にケアマネジャー・介護事業所・相談記録・家族から情報を得て生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと等を把握に努めている。			○	入居時家族に聞き取り、生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、サービス利用の経過、趣味等を基本情報シートや相談記録に記入している。 入居前に利用していた介護サービス事業所やケアマネジャーからの情報提供もある。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力（わかること・できること・できそうなこと等）等の現状の把握に努めている。	○	日々心身の状態に変化があるため言動で出来る事・出来ない事・出来る瞬間を見極める努力している。又どの様に準備（声掛けも含め）をすれば安全にできるのか。心が動くのか職員間で話し合いをもって対応することもある。				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	日々の言動・表情を意識・観察をして心身の状態を把握することに努力している				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。（身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等）	○	日々の言動・表情を意識・観察をして心身の状態を把握することに努力している				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	日々の記録・伝達ノート・個人対応マニュアル、カンファレンス等や日々の言動・表情で変化や違いを観察し心身の状態を把握することに努めている。				
3	チームで行うアセスメント（※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む）	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	チーム中心で検討しGH会で全職員にも助言を求め、本人の視点かどうか検討している。			◎	利用者一人に職員3名がチームで担当している。チームで本人の思いを検討したメモ（「浴槽に入りたい」「外に出たい」等）をもとに、月1回のGH会（職員会議）やサービス担当者会議時に話し合っている。 4名の利用者は、サービス担当者会議に参加している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	毎日の申し送りで課題が出たときはアセスメントを取りGH会で全職員にも助言を求め、より良く暮らすために必要な検討をしている。				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	アセスメントして本人がよりよく暮らすための課題を明らかにしている				
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	日頃から本人や家族の方の想いや意向を聴いて暮らしの中で反映できるような内容に努めている。				家族の「下肢筋力をしっかりつけたい」という意向や、職員の気付き等を、系列事業所の作業療法士に相談し、作業療法士作成の運動メニューを計画に採り入れている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人や家族の方に想いや意向を確認して暮らしの中で反映できるように、家族の方や関連施設の職員に協力してもらう内容にしている	◎		◎	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	慣れ親しんだ環境といつもの日課が、安全に行えるよう対応している。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	地域の方や家族の協力が盛り込まれた内容になっている				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	カンファレンス・検討会で話し合ったことは、会議録・伝達簿等で把握・理解して共有している。			◎	介護計画と、昨年の外部評価後に採り入れたプランチェックシートをセットにしてファイルし、毎日サービス内容をチェックして把握・共有している。 サービス内容に番号を振り、実践できたかを毎日○△×でチェックしている。 目標達成計画に「介護計画に基づいた内容の記入ができる」ことを挙げて取り組んだ。 日々の個別記録に暮らしの様子などを具体的に記録しているが、計画に基づいた記録という点からは、さらに工夫ができないだろうか。 GH会やサービス担当者会議など、ケアカンファレンスの会議録に個別に気づきや工夫等を記録している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	経過記録に記録している。申し送りに口頭で伝えたり、GH会時に状況確認している。チェックシートを作成し毎日記入している。			○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子（言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等）や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	日々の具体的な内容が、わかるように言動などできるだけ具体的に書くよう努めている。			○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	経過記録や個人マニュアルに記録に努めている。			○	

項目No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	H30・4月より6ヶ月毎にモニタリング・アセスメントを行うように移行している。その間の3ヶ月のカンファレンスをしている。特変等があった場合は随時行っている。			○	管理者が責任を持って期間の管理を行い、6ヶ月ごとに見直しを行っている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	毎月のGH会で現状確認を行っている。状態変化や要望があれば、その都度現状確認を行っている。			◎	月1回のGH会時に、全利用者について計画に沿った現状確認を行っている。
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	特変や要望があった場合は、その他関係者の協力を得て現状に即した新たな計画を作成している。			○	状態変化時には見直しを行っているが、この1年間は事例がなかったようだ。
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	毎日行う申し送りで課題が出た時に、職員が話し合いを持ち、ご家族と解決に向けてのカンファレンスをその都度設けている。			◎	月1回のGH会議時には、業務連絡とケアカンファレンス、勉強会を行い議事録を作成している。 ヒヤリハット等、緊急案件があれば、その日の勤務職員で話し合い報告書に記録している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	日頃からコミュニケーションをとり、会議の時でも話せる環境作りに努めている。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	△	毎回夜間専門員さんが参加することが難しい状態にある。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	伝達簿や会議録を作成し確認して貰っている。			◎	会議録やヒヤリハット報告書などの様式には、全職員名を印刷しており、個々に確認後に押印するしくみをつくっている。全項目、印がそろっていた。
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	伝達簿や会議録を作成し確認してもらっている。日々の申し送りなどでも伝達できるように工夫している。			◎	伝達簿は、個々の利用者情報と業務連絡を記入する欄に区別している。 業務連絡欄に、家族からの連絡事項や、やり取りを記入している。 確認後、サインや押印するしくみをつくっている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。（利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等）	○	伝達簿や会議録を作成し確認してもらっている。日々の申し送りなどでも伝達できるように工夫している。	◎			
(2)日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にした支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	業務に追われることはあるが、可能な限りその時に叶える努力はしている。				
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。（選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等）	○	出来るだけ選択して頂けるよう声掛けを行っている。意志疎通の難しい方は表情・一瞬のつぶやきや発語などで想いをくみ取るよう努めている。			○	朝食の牛乳の温かさ加減の希望を聞いたり、起床時の洋服選び、また、レクリエーションの場面では何をするか、参加するかを選んだり決めたりできるよう支援している。
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	何気ない会話の中に要望が見える事があるので、その内容をヒントに支援する努力をしている。				
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にした支援を行っている。（起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等）	○	入浴時間等においては、時間を設けさせて頂いている。それ以外は、一人ひとりのペースに合わした支援に努めている				
		e	利用者の活き活きした言動や表情（喜び・楽しみ・うるおい等）を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	理念や目標に立ち返り方向付けを行っている。利用者の生活歴や日々の状態の把握をして笑顔を引き出す言葉がけや接遇に取り組んでいる。			○	昼食前、職員と一緒に口腔体操と手・足の運動を行う様子がみられた。 午後、利用者の希望で職員が読み聞かせを行っていた。 おやつ前には、手作りの歌集を見ながら一緒に歌を歌う場面がみられた。
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	一瞬のつぶやきや表情を見逃さない努力をし、ご家族とも話を共有して「本人はどうか」という視点で支援している。				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にした言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	接遇研修への参加施設内外の研修で学んでいる。言葉かけや態度に意識して行動する努力をしている	○	○	◎	事業所で接遇をテーマに話し合い、昨年11月の法人内研修時には、管理者が取組みを発表した。 職員は、穏やかな態度でやさしく言葉をかけていた。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	人生の先輩であり尊敬の気持ちを持ちケアにあたっている.			○	下膳用のキッチンワゴンを利用者の席の横に用意する際には、「お食事中失礼します」と言葉をかけていた。 食後の歯磨きの声かけや誘導は、利用者が立ち上がったり移動を始めたりするタイミングを捉えて行っていた。
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	トイレの声掛けはご利用者の近くで行いカーテンを使用している。又、入浴も不安や羞恥心・プライバシーに配慮しながら行っている。				
		d	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	△	居室はプライバシーの場所であることは把握している。訪室する時は声をかけているが、ノック等忘れてしまうことがある。			○	管理者は、食堂にいる利用者に声をかけ許可を得てから入室していた。
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	プライバシー保護の勉強会の伝達講習に参加して理解,遵守出来ている				
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	自分が知らない事に気づかせてもらう事があり、勉強させてもらっている。感謝の気持ちを言葉やジェスチャーで伝えている。				
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	普段から職員が、コミュニケーションが持てるように支援している。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。（仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等）。	○	一人にならないように職員がご利用者さんに随時声掛けを行う。食事時の席等に配慮し臨機応変に対応している。一人でいることが好きな方は、状況を見ながら随時声かけをし、一緒にレクに参加できる様に支援している。			○	席順は、性格や相性を考慮して決めており、食事時は5テーブルに1～3人ずつ座っていた。 「寒い」とつぶやく人の背中をさすってあげる利用者や、2人で組んで洗濯物のしわ伸ばしをする様子を機関誌に載せている。
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルが有る状況を把握した時、さり気なく介入し当事者や他の利用者の方が不安や支障を生じさせないようにしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内　容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	△	馴染みの関係をできるだけ絶やさないよう、つぶやきの中に現れた場所や人物など知った場合、家族等に確認して把握し支援の参考にしている。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	馴染みの関係をできるだけ絶やさないよう、つぶやきの中等に現れた場所や人物など知った場合、家族等に確認して把握し支援の参考にしている。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	馴染みの関係をできるだけ絶やさないよう、つぶやきの中に現れた場所や人物など知った場合、家族等に確認して把握し支援の参考にしている。又、ご家族が一緒にお墓参りや親戚等への外出を支援している。地域に同級生の方がおり施設に面会に来て下さる事がある。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	面会時は、リビングや自室に案内しお茶等で、ゆっくりとお話ができるように工夫している。面会時間の制限はなく自由に面会できる。最近はないが、家族間の行事にお膳持参してもらい家族団らんの場所を提供した例がある。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。（職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない）（※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む）	○	お花見や海を見にドライブしたり・10月の秋祭り・コスモス畑を楽しむ外出が出来た。職員配置・お天気・利用者の方の心身の状態に配慮しながら取り込む努力をしている。天気の良い日は、散歩に出かけている。	△	△	△	道の駅や季節の花見物等に出かけたり、気候の良い頃は近隣の散歩など支援しているが、機会は少ない。帽子をかぶり、シルバーカーを押して散歩する様子を機関紙に載せている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	協力を得る所までに至っていない。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	心身の状態に配慮しながら取り組んでいる。体調がいい時にご家族と外出されている。外出を好まれない方は中庭に出てみかんを食べながら日光浴してゆっくりと過ごしたりしている。			△	気候が良い頃は、車椅子で散歩している。日光浴等の支援もしているが、戸外で過ごす機会は少ない。
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	×	本人の想いを家族に伝えている。また、実現するよう体調管理等に配慮して予定どうり実現できるよう努めていく。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	認知症の理解を深めていける様に資料を用意していつでも勉強できるようにしている。又勉強会を実施している。一人ひとりの状態の変化や症状を引き起こす要因を取り除くケアを行っている。				
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴（筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等）を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	認知症の理解を深めていける様に資料を用意していつでも勉強できるようにしている。又勉強会を実施して理解し、日々の中で変化を見逃さないよう情報を共有し、心身の維持向上が図れるよう努力をしている。				歩行器やシルバーカーを使用する人、車イス自走の人など、食堂と居室を行き来しており、職員はそれとなく見守っていた。午後、車イスの利用者が一人で低めの洗濯物干しスタンドにタオルを干している場面がみられた。
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。（場面づくり、環境づくり等）	○	出来る事・出来ないことを見極め、押し付けにならないよう心身の状態に配慮しながら場面づくり・環境づくりに取り組んでいる。	○		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	本人の楽しみ事や役割、出番になるかの把握するようにしている。				
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	日常的に一人ひとりの楽しみ事や役割、出番になる取り組みを行っている。	○	△	○	洗濯物を干す・たたむことや、食事の盛り付け等の役割をつくる取り組みを行っている。併設デイサービスの陶芸や絵手紙教室、朗読会やイベント等に参加できるよう支援している。縫い物ができるよう支援したり、調査訪問時は塗り絵をする人や手すりを持ち、かかと落としを行う利用者を、職員はそばで見守っていた。
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	地域の中での楽しみ事や役割、出番の支援は出来ていない。				
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	髪型の好みや似合うものを選んだり化粧したい方の支援をしている。また手洗い、起床時、入浴後など鏡も利用して無関心とならないよう一緒に身だしなみを楽しんでいる。				
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	入所時に又随時馴染みの持ち物など持参して本人の好みで整えている				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	一緒に寄り添い、声掛けをしている。家族等からの情報を思い出し・確認しながら支援している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	△	外出や年中行事や生活の彩りに合わせた服装を楽しめるようにしている				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしてさりげなくカバーしている。（髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等）	○	プライドを大切にしてさり気なくカバーしている。	◎	○	○	デザートのみかんを食べた後、「手を拭きますか」と言ってさりげなくティッシュを渡していた。利用者は、自分で手を拭いていた。
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	本人の望む店に家族が連れていく方もいる				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	重度な状態であっても、利用者の方・家族の方の望む本人らしさに注目し支援をしている。			○	重度な状態であっても朝夕の更衣を支援している。本人が希望する理容室に職員が同行するケースがある。

項目No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食事の楽しみが持てるように努めている。目で見て楽しみ、食べて喜んでもらえるように日々職員が食事作りに取り組んでいる。				献立表は、法人内の事業所が順番に担当して作成しており、食材は業者からの配達を利用している。 調査訪問日は、利用者2名がビニール手袋をして盛り付けを行う場面がみられた。盛り付けや、おにぎりを握る様子を機関誌に載せている。 食後は、職員が運びやすいように、キッチンワゴンに利用者が食器やトレ―を重ねて乗せていた。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともに行っている。	○	法人で買い物・献立は決まっている。食材が届いたら季節の野菜の話題づくりをし、会話の中で要望があれば献立を変更することもある。食後の台車に乗せる後片付けや台拭きをしている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	盛り付けや台拭き、食後の台車に乗せる等の後片付けをして、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	一人ひとりの好みや苦手なものを把握している。アレルギーの有無は入居時に本人や家族に確認している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	法人で買物・献立は決まっている。食材が届いたら季節の野菜の話題づくりをし、会話の中で要望があれば、献立を変更して昔懐かしいもの等を取り入れることもある。嗜好調査を行い参考にしている。			○	献立は決まっているが、誕生会やイベント時には、利用者の希望が多いちらし寿司に変更することもある。 土用の丑の日はうなぎ、節分には巻きずし、毎月1日は、赤飯を献立に採り入れている。 嗜好調査の結果をもとに、夏には素麺を採り入れた。 デザートの果物は、季節のものを事業所独自で注文している。
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。（安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等）	○	一人ひとりの嚥下能力を確認して安全な形態で提供できるよう配慮している。又便秘や下痢等の健康状態に合わせた物を提供している。刻み食の提供の方にも彩りの工夫の努力をしている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	茶碗や湯飲み。箸等使い慣れたもの使いやすいものを使用している方もいる			◎	茶碗や湯飲み、箸等は、家族が持参したり、事業所で用意したりして本人専用のものを使用している。 目が見えにくい利用者は、内側が黒い茶碗を使用していた。
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	職員も利用者の方と同じ食卓を囲み食事を一緒に食べる。誤嚥にならないように声掛け・見守りをし観察やサポートは、さり気なく行っている。			◎	利用者と同じテーブルで同じものを食べながら見守りやサポートを行っていた。
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	食事のできる匂いや雰囲気を楽しんで頂けることが出来る様に支援している。	◎		○	オープンキッチンで調理の匂いや様子がよくわかる。 調査訪問時には、お寿司をつくる匂いがしていた。 食堂のホワイトボードには1日分の献立を書き、職員が読んで話題にしたり、利用者が確認したりしている。 ゆっくり食事する利用者には、「かぼちゃです」「はい、どうぞ」と声をかけ、時々手助けを行っていた。
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	食事量・水分量を把握して栄養バランス・カロリーの把握に努め一日を通じて確保出来るよう配慮している。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	食事量・水分量を把握して食事の形態・飲み物の工夫・回数・タイミング等で低栄養や脱水にならないように取り組んでいる。栄養バランス・カロリーの把握に努め一日を通じて確保出来るよう配慮している。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	現在は、法人で統一したメニューにしている。偏りが無いよう考慮し献立作りを行っている。職員間では口頭の話し合いに留っている。			○	定期的に話し合う機会は持っていない。 形態については、口頭で話し合っている。 法人の事業所で食育資格を持つ職員等が献立のバランスなどの確認を行っているようだ。
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	食中毒に関する勉強会を実施周知徹底に努力をしている。又衛生的に調理器具・食材の使用と管理に努めている。				
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	口腔ケアの必要性の勉強会を実施周知徹底に努力をしている。又衛生的に調理器具・食材の使用と管理に努めている。				食事時の様子観察や口腔ケア時の目視にとどまっている。 必要に応じて歯科受診につなげている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況（虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等）について把握している。	○	一人ひとりの口の中の健康状態把握に努めている。			△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	×	訪問歯科診療の時口腔ケアの正しい方法について質問したい				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	義歯の手入れを適切に行っている。ポリデント洗浄を行っている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。（歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等）	○	毎食後、見守りや介助のもと口洗液を使用して口腔ケアを行っている。			◎	朝・昼・夕食後に、声かけや誘導を行い支援している。 居室の洗面所で支援するケースもある。
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	家族に相談して歯科の訪問診療に結び付けている。				

項目No.	評価項目	小項目	内　容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	排泄ケアの研修会の参加や勉強会を実施しており理解している				
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	排泄ケアの勉強会を実施しており理解している				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。（間隔、量、排尿・排便の兆候等）	○	排泄チエック表より一人ひとりの排泄パターンを観察し把握している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々の状態にあった支援を行っている。	○	24時間の排尿チェック表に記録して一人ひとりの排泄パターンを観察し情報収集して話し合い（口頭・GH会）その方にあった支援を行っている。又状態の変化を見直して一人ひとりのその時々の状態に合わせた支援を行っている。（口頭・GH会）	○		◎	GH会議時に紙パンツやパッドの適切性等について検討し、議事録を作成している。
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	食事や運動など生活環境を整えるように配慮して改善に向けた取り組みをしている				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	一人ひとりの排泄パターンを観察し、その方にあった支援を行っている。（夜間帯のptイレの使用・時間での声掛け誘導等）				
		g	おむつ（紙パンツ・パッドを含む）を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	本人・家族の要望を取り入れながら選択している。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ（紙パンツ・パッドを含む）を適時使い分けている。	○	一人ひとりの排泄の状態に合わせて使い分けた支援を行っている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。（薬に頼らない取り組み）	○	運動療法・食事療法・薬物療法等心身の状態に合わせた働きかけを行っている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。（時間帯、長さ、回数、温度等）。	△	温度や時間・長さなどは、確認しながら行っている。回数は出来る限り要望に応えたいが、現在週2回である。	◎		△	午前と午後の希望を聞き、利用者個々に週2回は入浴できるよう支援している。2回以上の希望は現在ないようだ。 現在、シャワー浴で支援している重度の利用者について、本人の「浴槽に入りたい」という希望に沿って、家族とも相談しながら支援を模索しているところである。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	△	個浴になっており、ゆっくりと入って頂けるよう支援しているが安全面の観点から要望に応じられない方もいる。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	出来る事は見守り、出来ない事は介助して安全に気を付けて支援している。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	入浴が嫌いな利用者さんもおられる為、声かけを行い配慮しながら行っている。 散歩や外気浴で汗をかいてもらう。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	前日や入浴時間前後の健康状態を確認して安全に入浴出来ている。（バイタル測定や食欲・本人の自覚症状など参考に）				
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	睡眠の状態を観察し記録。申し送り等で全員が、把握して共有している。				
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日頃の状態を把握し生活のリズムを整えるために気分転換（日光浴・外気浴・散歩等）で工夫をしている。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	生活の状態を把握して見直している。主治医に相談しながら総合的な支援を行っている。			○	現在、薬剤内服者が4名いる。主治医に生活の様子などを報告して相談しているが、さらに、活動や日中の過ごし方、支援内容などを検討するなど、取り組みを工夫してみてはどうか。
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	ご利用者の生活のリズム・想いに合わせて自室でゆっくり休めれる様に取り組んでいる。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	要望があれば応じている。又便箋は、用意している。携帯電話を持参している方もいる。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	要望があれば必要な手助けをする。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	△	希望に応じ対応している。家族等との関係がよりよいものとなるように努めていく				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	△	年賀状等届くと本人にお渡しして代読することがある。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	要望があれば対応している。				

項目No.	評価項目	小項目	内　容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	お金の所持や使うことの大切さは、理解している。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	随時要望があれば一緒に出掛けている。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	買い物の支援を行っているが、日頃からの理解や協力の働きかけはあまり出来ていない。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	家族と本人が相談し、おこずかいを所持している方は受診や買い物・教室の材料代など使えるようにしている。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	家族の方と相談し、使い方を話し合っている。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。（預り金規程、出納帳の確認等）。	△	基本金銭の所持をしないようにしている。必要な時にご家族に連絡し対応している。				
24	多様なニーズに応える取り組み	a	本人や家族の状況、その時々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	利用者の方・家族の要望に応えられるよう柔軟に対応できるよう努めている。	◎		△	専門医受診は家族の都合や希望に沿って職員が付き添い支援しているが、他には特に取り組んでいない。
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮	a	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	家での生活のように玄関前には花の鉢を、飾っている。	◎	◎	○	道路に面しており入りやすく、玄関前には、季節の花のプランターや鉢を並べて親しみやすい雰囲気をつくっている。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。（天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。）	○	玄関・リビングに季節感を感じて頂ける花を飾っている。玄関にはテーブルと椅子を、食卓から離れた場所にソファを置いて思い思いに、過ごせるような居場所の工夫をしている。	○	○	○	居間は広々としており、額入りの絵画や版画を飾り、年代物の箪笥や鏡台、サイドボード、ガラスケースの日本人形などを配置している。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	掃除の分担を行い気持ちよく生活して頂けるように配慮している。が気が付かないこともある			◎	不快な音や臭いはなく、毎日掃除を行っている。 椅子の脚に消音のため、テニスボールをはかせていた。
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激（生活感や季節感を感じるもの）を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	食事の匂いや音等生活感や季節感の感じるものを取り入れて居心地よく過ごせるよう工夫している。			◎	玄関や居間の畳の間に雛人形を飾り水仙を活けていた。 居間に金魚が泳ぐ水槽があり、利用者が餌をやっている。居間の壁面に手作りの大き目の日めくりカレンダーを掛けている。 本箱には、花の図鑑等を用意しており、時々利用者が手に取り見ているようだ。
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	孤独を感じることの無い様に利用者の方同士が自由に過ごせるようにしている。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	直接見えないよう、カーテン等工夫して対応している				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮	a	本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	使い慣れた馴染みのものを置き又自分で作った作品を飾るなど本人が、居心地よく過ごせるように工夫している。	◎		○	各居室に洗面台があり、ブラシなどを置いていた。 テレビを持ち込み、朝のニュースをみている人がいる。 カレンダーにその日の出来事をメモしたり、予定を書き込んだりする人がいる。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	利用者の方が、安全に出来るだけ自立した生活が送れるようにトイレにカーテンの使用・手すり代わりの腰掛の配置等工夫している。			○	トイレのドアに大き目の文字で「便所」の貼り紙をしていた。ドアに掛けた札を自分で「使用中」に反す人もいる。 広めのトイレには、男性用便器を備えている。また個室トイレのドアをカーテンに換えて車イスの人が利用しやすくしていた。 複数の利用者のベッドには、移動バーを取り付け、立ち上がり時安全に移動できるようにしていた。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	紙パンツの枚数確認等で失禁状態の不安や混乱への配慮や工夫している方もいる。又、異食をしないようにテーブルの上に極力物を置かないようにしている。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。（ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等）	○	出来るだけ家庭に近いようにしているが、危険な刃物等は、管理している。男性のご利用者さんに車椅子の空気入れをして頂いたり、中庭に出てはき掃除が出来る様にほうきを置いている。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット（棟）の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。（鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等）	○	居室や日中の出入口玄関に鍵をかける事の弊害を理解している。	◎	◎	◎	日中は、鍵をかけていない。 1月のGH会時に、身体拘束について勉強している。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	現在施錠を望む家族はいない。鍵をかけない自由な暮らしについて安全確保も含め話し合っている。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している（外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等）。	○	無断離所のある利用者の方については、日々の暮らしな中で本人が、楽しめる塗り絵・パズル・カラオケ等の提供や中庭で日光浴・庭掃除等で気分転換を図っている。又、犬が苦手なご利用者さんがおり、「犬がいます。」と貼紙をすることでリビングに帰られることもある。				
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	一人ひとりの病歴や現病歴、留意点等についての把握に努めている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	日々の状態を把握して変化のある時は情報を共有して観察し記録、いつもと違う変化やサイン等を記録に残している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	変化や気になることがあれば、情報を共有出来るように記録に残して、訪看や医療機関に相談し、状態悪化の防止や適切な入院につなげている。				

項目No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	一人ひとりのこれまでの受療状況を把握に努め、家族や本人が希望する医療機関に相談や受診をしている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	利用者の方や家族の希望する医療機関に受診出来るよう支援している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診後には必ず報告し記録に残している。希望に応じて記録の開示を行っている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	個人情報には十分に配慮し状況報告や提供を行っている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	医療関係者と情報交換や相談して、安心して治療できるように、また早期退院できるよう対応している。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	スムーズに行えるよう連携を図っている				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	週に1回訪看の方が訪問に来て日常の関わりの中で得た情報や気付きを伝え相談している。				
		b	看護職もしく訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	訪問看護ステーションと24時間相談できる体制は整えている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が行えるよう一人ひとりの対応のについてマニュアル作成、早期発見・治療につなげている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	処方箋は、個人ファイル閉じておりいつでも手に取りることが出来るようにしている。理解には努めている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	服薬管理票を作成し飲み忘れや誤薬が無い様に努めている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用（周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等）がないかの確認を日常的に行っている。	○	服薬の効果や副作用について観察と確認を日常的に、行っている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	服薬後の状態を観察経過や変化などを記録家族・医師・看護師に情報提供している。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	重度化における指針やみとりに関する指針を契約書に盛り込み説明を行っている。				入居時に、看取りの指針に沿って説明を行い方針を共有している。最期は入院希望が多いようだ。 看取りの体制を整備しているが、現在まで支援した事例はない。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	現在看取り希望の方はいないが、重度化・終末期等のあり方についての方針の共有はしている。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	△	現状を把握してどこまでの支援が出来るか見極めていきたい				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	△	事業所の出来る事出来ない事をお伝えし理解を得られるようにしたい。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	訪問診療時などで状況を伝え必要時、家族には、主治医との面談の時間を取って頂き今後の方針を決めている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。（心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等）	○	重度化のご利用者さんには日々の暮らしぶりに注意し状態観察や訪問診療での様子及び薬の変更等伝を本人と家族に伝え、寄り添えるよう努めている。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症（ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等）や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	勉強会を実施して具体的な内容について学んでいる。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	感染症に対する予防や対応のフローチャートが、ある。又勉強会で対応や汚物処理の仕方など学んでいる。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	行政機関からの事務連絡等最新情報の内容を確認・把握して予防対策に努めている。				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	地域の感染発生状況を把握して感染症流行に随時対応している。				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	職員は手洗いや消毒を行い媒介者とならないように注意している。又来訪者等についても清潔の保持の協力をお願いしている。玄関に張り紙・マスク着用、ウイルス殺菌消臭スプレーを設置して協力してもらっている				

項目No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅱ.家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	面会に来られた際には、日常の生活等の様子やつぶやき、表情、言動等を伝え利用者の方の想いを伝えている。				家族会や地域交流会、開設記念日、クリスマス会等に文書送付や声かけして案内している。 調査訪問日の昼食時には、来訪した家族が横に座り食事の様子を見守っていた。 これまでのこうの瓦版に替り、今年度から系列2法人合同の機関誌を年4回発行している。 機関誌と法人のホームページに事業所の日常やイベントの様子を掲載している。 遠方に住む家族には、月1回以上、手紙や電話で近況を報告している。 機関誌で新しい職員や入居者を紹介している。 運営推進会議の議事録を廊下に掲示している。 玄関に手すり設置の予定があることを家族会で伝えており、家族会の議事録は全家族に送付している。 家族来訪時には、個々の担当者が近況報告を行い、意見や希望を聞いている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。（来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等）	○	気軽に来て頂けるよう面会時間を設けていない。リビングや居室で面会できるように家族の方との時間を大切に過ごして頂けるよう配慮に努めている。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。（食事づくり、散歩、外出、行事等）	○	外出や行事にも案内させて頂いている。散歩や食事の介助等に来ていただくこともある。施設の行事表をご家族がみて参加できるように掲示している。	◎		○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。（「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等）	○	年に4回法人の新聞を発行している。郵送又は面会時などにお渡ししている。又県外に住む家族には、往診の結果や日常の様子を郵送又は随時電話等で報告している。	○		○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	△	家族の方が知りたいこと不安に感じていることなど相談しやすい環境を作り声掛け等を行い配慮したい。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。（認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等）	○	よりよい関係性を築けるように努めている。認知面の進行で現実を受け入れ難いと困惑する家族の方には、日々の何気ない会話の中でつぶやく言葉や表情など伝え利用者の方の想いを伝えることもある				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。（行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等）	△	全家族の方に報告出来ていない事柄もある。	○		○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。（家族会、行事、旅行等への働きかけ）	△	家族同士の交流が得られるよう、家族会・行事を働きかけている。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	○	おこり得るリスクを家族に説明報告し理解して頂けるように働きかけている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	6か月毎のケアプランの説明時に意見や希望等の相談が出来るようにしている。又来訪時にも声掛けし意見、希望を聞く様に努めている。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退去について決定過程を明確にして具体的に説明納得して頂いている。又納得のいく退去先に移れるよう支援している。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。（食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等）	○	契約時に料金の内訳を文書で、設定理由を具体的に説明し同意を得ている。				
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	地域交流・開設記念行事に目的や役割の説明をしている		○		併設事業所合同の開設記念行事には、毎年地域の人に案内している。 地区行事の文化祭や地域交流会の際には、併設事業所合同で建物内の地域交流スペースにて喫茶店を開き、交流の場を提供している。 公民館での文化祭時には利用者の作品を出展し、見学に行った。 保育園との交流を継続している。 中学生の職場体験学習や、大学生の介護実習を受け入れている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。（日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等）	○	開設記念行事・地域交流会・文化祭・運営推進会議などで関係を深めている。文化祭の時はご利用者さんの作品を展示している。又、散歩に出た時には地域の方と挨拶をし交流に努めている。		○	◎	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	人数的には少ないが、少しづつではあるが増えている。地域に根ざせるように働きかけていきたい。				
		d	地域の人が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	△	民生委員さんや以前勤めていた近隣の職員の方が立ち寄ってくれる。				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	散歩時に声をかけることはある。日常的なお付き合いは出来ていない。				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。（日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援）	△	日常的な活動の支援はないが、開設記念行事など際近隣住民による、伊予漫才等で祝って頂いた。又毎月定期的に行うなどボランティア（朗読会やお抹茶・生け花教室等）の訪問がある。				
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	×	地域の行事等に参加して楽しむことは出来たが、心身の力を発揮できる関わりは出来ていない。				
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている（公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等）。	○	地域の保育所との交流がある。公民館活動の・文化祭・食育調理教室の参加で関係を深めている。				

項目No.	評価項目	小項目	内　容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	H31・1月利用者さんが参加する予定。ご家族・地域の方は毎回参加して頂いている。	◎		△	併設の小規模多機能事業所と合同で開催している。 利用者は参加していない。 家族は1～2名、地域から1～4名の参加がある。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況（自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等）について報告している。	△	家族会の時に利用者やサービスの実際、評価の取り組み、目標達成計画等の報告はしているが十分でない。			○	運営推進会議では、利用者の状況や活動報告を行っている。 外部評価結果や目標達成計画の内容について報告しているが、取り組み状況は報告していない。
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	毎回意見等をいただいている。意見を反映できるように取り組み報告している。		○	○	目標達成計画に「会議の参加者からの提案や意見を活かして報告ができる」ことを挙げて取り組んだ。 外出予定がないことについて意見が出たことを受け、季節の花見物を計画して、次会時に出かけた際の様子を報告した。
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	平日の昼間の開催が多い。開催日時については検討していく必要がある。		○		
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	運営推進会議の議事録を玄関で出入口に掲示している。				
Ⅳ.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念の大切さをGH会で話し合い、日々実践出来るよう努めている。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	家族会や利用開始時などに事業所として方向性を伝えている。又GH出入り口の壁に理念を掲示している。	○	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	△	内部研修等には参加出来ているが、外部研修には積極的に参加できておらず機会をつくるように計画を立てる。				
		b	管理者は、OJT（職場での実務を通して行う教育・訓練・学習）を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	△	法人で各職員が目標管理を立て取り組んでいる。又、内外の研修を行っておりスキルアップに努めている。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	年に2回は、面談を行っている。又その都度、職員からの相談にも応じてもらっている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。（事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加）	○	法人内で歓迎会や忘年会等を行い、他部など意見交換ができるように働きかけている。又、法人内の研修会にも参加し職員の意識向上に取り組んでいる。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	残業を減らす為に業務改善に取り組んだり、面談の機会を設けている。	○	○	○	法人の事務局長が、年1回管理者面談を行っている。 年2回、忘年会など、法人主催の食事会がある。 ストレスチェック制度を導入している。
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	全体での勉強会を実施している。内容も事例を挙げて行っている。				
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	事業所で勉強会をしたり、GH会で話し合うことがある。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見過ごされることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	接遇の研修会を取り入れ、どのように利用者・家族の方に関わるのか見直し改善に努めている。・			○	職員は、不適切なケアを発見した場合はその場で話し合うようにしている。また管理者に報告し、GH会で話し合うこともある。 １１月のGH会で、虐待防止について勉強した。
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	職員ストレス等の面談等を行い改善に努めている。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	勉強会を実施し正しく理解している。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	3ヶ月に1回身体拘束適正検討委員会を実施し、事例検討を通して勉強に取り組んでいる。				
		c	家族等から拘束や施錠の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	身体拘束や施錠の要望はない。要望があれば身体拘束を行わないケアの取り組み等の理解を図る。				
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	△	勉強会は実施している。更に理解を深められるよう研修会に参加する				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	×	事例がない。今後生かせるように研修に参加する。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関（社会福祉協議会、後見センター、司法書士等）との連携体制を築いている。	×	事例がない。今後生かせるように連携を図っていきたい。				

項目No.	評価項目	小項目	内　容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	初期対応の訓練は定期的に行えていない。対応の手順のマニュアルを目に付くところに貼り応急手当が出来るようにしている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	×	初期対応の訓練は定期的に行えていない。勉強会は、実施してシュミレーションしている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一歩手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハットにまとめGH会で職員間で話し合って再発防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	事故報告・ヒヤリ・ハットを挙げ、検討を行っている。利用者の方の安全に繋がるよう活かしている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルは作成している。苦情に対し真摯に向き合い解決できるよう努めて行く。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。行政機関に相談したケースはない。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	相談や苦情があった場合は直ぐ対応出来るように説明と改善方法を話し合っている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。（法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等）	○	満足度調査などを実施意見が反映できるようにしている。			○	年1回満足度調査や嗜好調査を実施しており、「季節のものを」という意見を献立に反映した。 利用者の運営推進会議への参加を期待したい。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。（法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等）	○	意見箱や直接相談等に応れるようにしている。	○		○	運営推進会議や年2回の家族会時に、運営に関する報告を行い、意見や要望を伝えられる機会をつくっている。
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	事業所だけでなく、契約書などにも公的な相談窓口など連絡先を掲示している。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	面談の機会が設けている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	GH会の時に意見や提案をきいている。理念に沿って支援できるように話し合っている。			○	管理者もシフトに入り、職員と一緒に取り組んでおり、日々の中でも意見や提案を聴き、検討している。
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	理解を得られるように説明し行っている。年1回全員が自己評価に取り組んでいる。				
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	△	評価を通して問題点が明らかな部分も見えてきているため課題改善に取り組めるよう努めていく。				
		c	評価（自己・外部・家族・地域）の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	運営推進会議などで結果を話し合っている。事業所全体として取り組んでいきたい。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	運営推進会議等で結果を話し合っているが、それで終わることのないように、途中の経過報告なども行っていきたい。	○	△	△	評価結果と目標達成計画は、運営推進会議や家族会時に報告し、さらに全家族に送付している。 モニターをしてもらう取り組みは行っていない。
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	運営推進会議や家族会等で評価結果を報告したが、取り組みの報告は出来ていない。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。（火災、地震、津波、風水害、原子力災害等）	△	全員の職員が徹底出来るよう努めている。施設内に災害のマニュアルを掲示している。職員が徹底できるよう努めていく。				
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	昼間・夜間帯など様々な時間帯出火場所を変えて利用者の方状況、職員配置など考えて訓練している。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	△	消火設備については、点検等を定期的に行っているが、備蓄については、出来ていない。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	運営推進会議の際、消防署の方が来て地域や家族の方が避難訓練の見学を行い話し合う機会がある。協力・支援体制までの話し合いが出来るように取り組んでいく。	○	◎	○	地域の防災訓練に職員が参加している。 併設事業所と合同で行う避難訓練を運営推進会議と併せて行った。会議メンバーに見学してもらい、話し合う機会もつくっている。 今後は、協力・支援体制づくりを具体的にすすめてほしい。
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。（県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等）	△	地域の防災訓練などには年に1回は参加している。				

項目No.	評価項目	小項目	内　容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。（広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等）	×	取り組んでいない。				
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	相談を行う窓口はないが、相談があれば応じることは出来る。又、関連施設等に繋ぐことは出来る。		△	△	法人全体で相談を受けている。 今後さらに、地域行事の機会を捉えるなどして、地域のケア拠点として相談支援の取り組みにも工夫してはどうか。
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。（サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等）	○	地域交流会・開設記念行事や文化祭には施設内に喫茶店を開き地域の方に来ていただいている。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	△	聖カタリナ介護福祉実習生の受け入れに協力している。ボランティア養成の相談は受けたことはない。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。（地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等）	△	地域交流会・開設記念行事に地域の方・ボランティアの方が来て頂いたり、文化祭には、利用者の方の作品展示させて頂いている。施設内に喫茶店をオープンさせ喜んで頂いている。が他事業者や関係機関の連携はできていない。			○	隣接する公民館行事の地域交流会の際には、併設事業所と合同で建物内の地域交流スペースで、こうの喫茶を開くなど協働している。 「まもるくんの家」「シニアまもるくんの家」に登録している。